

**産学協力研究委員会「日本におけるケミカルバイオロジーの新展開第 189 委員会」  
第 3 回定例会 委員会議事抄録**

日時：平成 28 年 12 月 7 日（水）14:40-17:40

場所：ステーションコンファレンス東京 4F 402 室  
東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー

出席者：【敬称略】

長田 裕之(理化学研究所) 浅見 忠男(東京大学) 井本 正哉(慶應義塾大学)  
上村 大輔(神奈川大学) 遠藤 正志((株)LSIメディエンス)  
櫻井 邦弥(EA ファーマ(株)) 永野 栄喜(住友化学(株))  
横田 博之(アステラス製薬(株)) 町谷 幸三(日本農薬(株)) 吉田 稔(理化学研究所)  
荒井 緑(千葉大学) 上杉 志成(京都大学) 掛谷 秀昭(京都大学)  
河岸 洋和(静岡大学) 木村 禎治(エーザイ(株)) 櫻井 香里(東京農工大学)  
品川 朗(第一三共RDノバーレ(株)) 清水 力(クミアイ化学工業(株))  
新家 一男(産業技術総合研究所) 菅原 二三男(東京理科大学)  
鈴木 賢司(大鵬薬品工業(株)) 袖岡 幹子(理化学研究所) 巾下 広(小野薬品工業(株))  
水島 淳(日本たばこ産業(株)) 由井 慶((株)ファンケル) 吉田 潔充(石原産業(株))  
米沢 実(Meiji Seika ファルマ(株)) ロドニースティーブンス(大正製薬(株))  
井上 裕章((株)LSIメディエンス) 丸山 透(小野薬品工業(株))  
事務局：平野 弘之(理化学研究所) 山口 直美(理化学研究所) 大高 潤之介(理化学研究所)  
(学界委員 15 名 産業界委員 15 名 随伴 3 名)

**議事内容**

1. 前回 平成 28 年度 第 2 回定例会（平成 28 年 10 月 26 日）議事録確認 【資料 1】

2. 産学協力研究委員会委員長会議 報告

長田委員長より 11 月 4 日に開催された第 43 回「産学協力研究委員会委員長会議」の報告があった。

- ・各委員会が独立しており、委員会が連携する方策が議題となっていた。当委員会はゲノムテクノロジー第 164 委員(油谷委員長)と委員会合同シンポジウムを開催することを計画した。
- ・引き続き女性委員、若手委員の参画について また大学院生の教育活動を行うことが方針として述べられた。
- ・研究費の取り扱いが委員会で執行できる部分が説明された。
- ・講演では 垂直磁化記録方式という異分野であったが、それまで水平に磁化記録していたものを、垂直磁化にすることによって高密度記録を達成し、この日本発の独自技術が世界標準となった興味深い内容だった。

3. 編集委員会報告

幹事会に先立ち開催された日本学術振興会の特別事業（知識や技術の伝承等とりまとめ）第 2 回編集委員会の報告

刊行物「ケミカルバイオロジーの発展に貢献してきた化合物(仮題)」の出版について

第1回編集会議で出版社 Springer JAPAN から提案されている”生理活性物質のエンサイクロペディア”の作成方針としていた。今回シュプリンガーとネイチャーが合併しシュプリンガー・ネイチャー (Springer Nature) となったため同社担当より説明を受けた。

#### 【資料3】

Online で執筆することができるというメリットはあるが、本事業の「知識や技術の伝承等とりまとめ」刊行物(書籍)を作製することとは目的がそぐわないことも明らかとなった。

○シュプリンガー・ネイチャーの書籍”Bioprobes: Biochemical Tools for Investigating Cell Function”がある。(著者には委員会メンバーも参加している)。この書籍執筆のため生理活性物質の文献情報など資料をとりまとめているが、この資料を委員会活動のために利用できるかシュプリンガー・ネイチャー担当に確認した。JSPS 委員会活動のために利用するのであれば可能であるとの回答を得た。

○本事業編集委員が中心となり、(次回 委員会 3月1日までに)注目すべき生理活性物質についての記載様式を設定、189 委員会の各専門分野のメンバー、寄稿を希望する研究者にも執筆依頼する。

#### 4. 新規会員について

学界委員 大高 潤之介 基礎科学特別研究員

理化学研究所 環境資源科学研究センターケミカルバイオロジー研究グループ

の新規入会について【資料4】 委員会にて異議なく決定した。

#### その他

○定例会研究会の委員講演、特別講演の講師選定

幹事会にて委員会委員の発表は

- ・鈴木賢司 委員(大鵬薬品)
- ・副島義臣 委員(ロート製薬)
- ・藤本ゆかり 委員(慶應義塾) 内諾済
- ・品川 朗 委員(第一三共ノバーレ)

に順次講演依頼することとなった。

・特別講演候補次回は

名古屋大学大学院 生命理学専攻形態統御学講座細胞間シグナル研究グループ

教授 松林 嘉克先生

に依頼する。(浅見プログラム委員長より連絡)

○次回開催について

日程 2017年3月1日

会場 大阪 石原産業株式会社 本社ビル 5F ホール

1泊2日の日程とし 委員会翌日は見学会を設定する。

(3) 研究会 15:00-16:40

1. 「化合物オリエントと生理活性脂質からの創薬」  
小野薬品工業(株) 丸山 透氏
2. 「植物制御剤とケミカルバイオロジー」  
クミアイ化学工業(株) 清水 力氏
3. 「アカデミア発治療薬シードの創出を目指して」  
慶應義塾大学 井本 正哉氏

特別講演 16:50-17:30

筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構

教授 長瀬 博先生

意見交換会 17:45-19:30

研究会終了後 特別講演講師も参加され

ステーションコンファレンス東京 6F 606 室にて意見交換会を開催した。